



# ふるさと笠松の「モラルセンス No.1」

## 「子育ての秘訣は、子供を尊敬するにあり。」



左の写真は笠松小学校の玄関にある小原 国芳先生の書です。小原国芳先生は鹿児島県の出身で、玉川学園の創立者です。この書には、「教育の秘訣は子供を尊敬するにあり。ゆめ子供の欠点の看破者たるなかれ。」

と書かれています。まさに名言だと思います。

最近「人権教育」や「誉める教育」が浸透したこともあり、子供に向かって、「何でこんな簡単なことができんの!」とか、「おまえは1年生より劣っているな。」などという声を聞くことは少なくなりました。とてもよいことだと喜んでます。これからも「子供を尊敬する心の構え」や「誉めて育てること」を守り続けたいものです。



### 「一言の大切さ」・・・子供の心は折れやすい。

絵を描くことが「嫌い」な子を受け持ったことがありました。どうして嫌いになったのか尋ねたところ、彼はこう言いました。

「小さいときに絵を描いて、お母さんに見せたら、『何、この絵は??何を描いているか、わからへんね。』と言われてから、絵を描くことは嫌いになりました。」と、はっきりと言いました。幼稚園時代のことなのに、しっかりと心に刻まれてしまったのだらうなと思いました。

私たちもつい、この母親に似たような言動をとってしまうことがあります。「一言」が子供や相手の心へどう響くか、相手の立場になって考えることができることは、子育てにはもちろん、日々の暮らしにも必要ですね。

## 石畳散策・・・「ふるさとの歴史と自慢」を求めて

### 1 「へそ塚」・・・我が子の命をいつくしむ親心を感じました。

奈良津堤にある魂生（こんせい）様の境内に全国で唯一の「へそ塚」があります。笠松陣屋があった頃、その一隅にあった「へそ塚」（右の写真）に、安産や赤ちゃんの健やかな成長を願って、多数の方がお詣りをしたと伝えられています。

自分がこの世に生を受けたとき、両親がどんなにか我が子の健康と成長を願って「へその緒」を納めたかを偲び、親の愛の深さを知るよすが（縁・因・便）になることを願って、「へそ塚」は再建されました。親の愛はいつの時代も変わりませんね。



### 2 「魂生（こんせい）大明神」のご神体は???

へそ塚の数メートル北側に魂生様のほこらがあります。ご神体は約 120 cm の男根の形をした石だということです。子宝、安産、縁結び、下の病気や性病などに霊験があるとされています。また、豊穡や生産に結びつくことから、商売繁盛にも御利益があるといわれています。

なお、ほこらの前には「なで石」（左の写真）があり、なでると「入試に合格したり、大穴が的中したりする?」などの祈願成就の御利益があるようです。

「縁結びで きれいな顔は まれにこ来る」

### 知って得・徳 コーナー

問題「袖すり合うも たしょうの縁」という「ことわざ」があります。さて、「たしょう」を漢字で書くとどれ? 1 多少 2 多生 3 他生

「モラルセンス」に関するお問い合わせ  
〒501-6083 羽島郡笠松町常盤町6  
笠松中央公民館 電話 058-388-3926

## 「ザリガニにだって、習慣付けが大切です。」

小学2年生を担当したときのことで、ザリガニを素材に理科の研究授業をしました。ザリガニの著しい特徴に気付かせたいと思って、本時の授業の目標を「ザリガニは大きなはさみを使って、えさをとらえたり、相手をおどしたりすることをザリガニのエサの食べ方などの観察を通して気付かせる。」としました。絶対にこの研究授業を成功させたいという気持ちでいっぱいでした。そこで大きなタライを班ごとに用意し、河原でザリガニの住み家となる石も集めてきました。そして、ザリガニもたくさん捕まえてきました。どうしてもエサを食べている様子を子どもたちに見せる必要があるので、私はある工夫をしました。つまり1週間前からザリガニにエサを与えないで、絶食をさせたのです。そうすれば、きっと、エサをやったときにザリガニはエサに飛びつくに違いないと、私は自分の工夫を信じて疑いませんでした。

授業は2時間目でした。導入は順調に進んで、ちょうど10時頃にエサやりタイムを迎えました。でも、どの班からも期待した歓声が聞こえてきません。「おかしい???」どのザリガニもエサのスルメに飛びつかないのです。時間は無為に過ぎていき、結局、授業は山場を迎えることなく終わってしまいました。

どうしても授業の結果に納得がいかないで、先輩の生物の先生にこの事態を話しました。すると、

「当たり前だ。10時にエサを食べさせたかったら、毎日10時にエサをやっておかななくてはだめだ。ザリガニにだって習慣付けることが大切だ。急にエサをやっても警戒するだけだ。」と、笑われてしまいました。

今でも、先輩の言葉は心に焼き付いています。

### ☆ 子育て一口メモ ☆

## ハインリッヒの法則（1：29：300）＝事故の予測

事故の予測という、アメリカの技師ハインリッヒが発表した「ハインリッヒの法則」

(1：29：300)を思い出します。この法則は、多くの労働災害を分析した結果から導き出され「**1件の重大災害(死亡・重傷)が発生する背景に29件の軽傷事故があり、300件のヒヤリとかハットした無傷の災害がある。**」と、警告した法則として有名です。

もし、この経験則が事実を表しているとしたと、重大災害(事故)は非常に高い確率で起こることになります。例えば、自転車による軽傷事故が29件も起きたとしたと、統計的には1件の重傷事故が発生することになります。保護者としては子どもの命を守るために300件のヒヤリとかハットした無傷事故の段階で、次に起こるかもしれない軽傷及び重傷の事故を防ぐように手立てを打ちたいものです。

そのためには、

- ・ 小さな事象でも、子どもの生命の危機やケガにつながるかもしれないと考えて、管理職と情報を交流したり、地域の責任者に報告したりする。(連絡・相談・報告)
- ・ 次に何が起こるかを予測し、適切に子どもを指導する。(予言者としての役割)

などのことを、どの保護者も習慣化して身に付けるようにし、

「事故を防ぐことは何でもないことですよ。保護者は常に子どもの命を守ることを考えているのですから。」

と言えるようにしたいものですね。

